



JSBMR Newsletter No. 12

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

第27回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期： 2009年7月23日(木)～7月25日(土)

会 場： 大阪国際会議場

会 長： 大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座
生化学教室 教授 米田 俊之

ホームページ： <http://www.convention.co.jp/27jsbmr/>

演題募集期間： 2009年2月12日(木)～4月14日(火)正午

会長挨拶： 第27回日本骨代謝学会開催にあたって

大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座生化学教室
米田 俊之

今般、平成21年7月23日～25日に大阪国際会議場で開催されます第27回日本骨代謝学会の大会長を務めさせて頂くこととなりました。日本における骨代謝研究の最高峰ともいえる本学会を主催させて頂くことを大変光栄に思うと共に、その責任の重さを強く感じております。

ご承知のように日本骨代謝学会(JSBMR)は内科、整形外科、婦人科、小児科、歯科などの臨床医および基礎研究者が一堂に会するきわめてヘテロな学会であり、さまざまな視点・立場からの多種多様な発表、ならびにディスカッションが非常に活発であることが大きな特徴です。このような多様、かつ活発な研究、ディスカッションにもまれ、育まれて、数多くの優れた研究が世界に発信されてきたことは本学会が誇りとすべきところですが、また ASBMR においてもこの数年日本から発表された研究が多くの賞を獲得しているという事実から、サイエンスのレベルにおいて JSBMR が ASBMR と肩を並べるところに来ていることが実感できます。このように JSBMR が今日の隆盛を見るようになった理由の一つには、現在日本で活躍中の骨研究者の多くがアメリカに育ててもらったことがあります。それを土台にして JSBMR が優れた研究と研究者を生み出す土壌を醸成し、さらに推進する努力を続け、日本の骨研究の司令塔として機能してきたことも大きな理由であることは明らかです。そういった意味からも第27回大会が世界を見据えて、日本の骨研究レベルをいっそう高める場となり、また本学会の特徴を生かした境界領域の開拓に欠かせない相互の情報交換や交流、さらには共同研究の発祥の場としての役割を果たせることを願っております。また大会長のこだわりとして“骨とがん”をテーマの一つとして組み入れさせて頂けることになり、海外からの講演者を含めてこの分野のより一層の進展を図りたいと思っております。さらに、第26回大会において松本大会長が新しい試みとして取り入れられた、あり方委員会(加藤茂明委員長)の提案による、内科系、外科系、基礎系の若手を中心とするシンポジウム、ならびに Meet-the-Experts を第27回大会においても行います。今回もこれらの試みが新進気鋭の研究者を交えた活発な討論の場となることを期待しております。

JSBMR の重要な課題の一つにアジアとの交流を深めることがあります。その手始めとして第26回大会において韓国骨代謝学会(KSBM)、ならびに骨粗鬆症学会(KSO)と、日本骨粗鬆学会、そして JSBMR の4学会のジョイントシンポジウムを行いました。第27回大会におきましても同様のジョイントシンポジウムを行いますので、会員、参加者の皆様方には奮ってご参加頂き、骨研究における韓国とのきずなを強める努力にぜひともご協力を賜りたいと願っております。

最後に第 26 回大会が日本骨粗鬆症学会とのジョイントとなり 10 月末に開催されたため、第 27 回大会の準備期間が 10 ヶ月に満たず、会員の皆様に何かとご不便、ご迷惑をおかけすることになるかと思われませんが、なにとぞご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本大会が多数の方々のご参加と活発な討論の場となり、参加された会員、研究者の皆様にとって有意義かつ実り多い学会となり、わが国の骨代謝研究の更なる発展に寄与すると共に、新たに参加された若手の臨床医や研究者の一人でも多くの方々に骨代謝研究への関心を高めて頂ききっかけとなれば主催者一同が何よりの喜びとするところであります。

* 新しい情報、学会内容はホームページ (<http://www.convention.co.jp/27jsbmr/>) に随時掲載、更新いたします。

<抄録集当日配布のお知らせ>

第 27 回日本骨代謝学会学術集会は、第 26 回学術集会在 10 月末に開催されたことにより準備期間が短いため、演題募集終了期日を平成 21 年 4 月 14 日(火)までと例年よりも遅く設定させていただきました。このため、第 27 回日本骨代謝学会学術集会の抄録集を事前に郵送することがスケジュール的に困難となり、**学術集會に参加していただく会員の皆様方には、学術集會期間中に会場受付にて抄録集をお渡しすることとさせていただきますことになりました。また、学術集會に不参加の会員の皆様方には、後日、抄録集を郵送することとさせていただきますと考えております。**

抄録集を事前に配布できないことによるご不便を少しでも補足するために第 27 回日本骨代謝学会学術集會のプログラム内容(演者名、演題名、会場および日時)が決定後、WEB サイト(<http://www.convention.co.jp/27jsbmr/>)に掲載いたしますので、よろしくご観くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様には、たいへんご不便をおかけいたし、誠に申し訳なく思っておりますが、事情をご理解頂き協力の程、何卒よろしくようお願い申し上げます。

2008 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2007 年 12 月 ~ 2008 年 7 月末)

2007 年度 第 3 回理事会議事録

日時: 2007 年 12 月 21 日(金) 14:00 ~ 16:00
会場: 千里ライフサイエンスセンター 6 階 603 会議室
議事:

2007 年度第 2 回理事会議事録(案)の承認

2007 年 7 月 21 日に開催された 2007 年度第 1 回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、福永理事、吉川理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告

野田理事より 2007 年 11 月 30 日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、現賛助会員一覧の提示があった。

2. 会計報告

吉川理事より 2007 年 11 月 30 日現在の会計中間報告があり、承認した。特別会計では、第 25 回学術集會より剰余金の寄付があった旨報告があった。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会

加藤委員長より、若手シンポジウム企画(案)について提示があり、内容について承認した。また、学術集會において基礎と臨床の入門的、教育講座を企画してはどうかとの提案があり、承認した。また、松本理事長より同企画の実施について、終了後に参加者へアンケートをとり、好評であれば次年度以降の学術集會にも積極的に取り入れる旨、確認した。

2) JBMM 編集委員会

清野編集委員長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。
・2007 年度 12 月 14 日時点での投稿数は 229 編であり、(内訳は却下 105 編、採択 94 編、審査中 30 編)昨年より投稿率が 5 割増加した。
・投稿論文の国別内訳は、国内 32.3% に対し、国外 67.7% と海外からの投稿が増加している。
・投稿数の増加に対して、査読者の負担を軽減するため、査読者を増やしたい。
野田理事より、若手研究者を、積極的に査読者に登用してはどうかとの提案があり、了承した。

3) 国際渉外委員会

米田委員長より、同委員会の活動について主に以下の報告があった。
・2009 年 3 月 21 日 ~ 25 日にシドニーで開催される IBMS について、本会からの若手研究者派遣を促すため、2006 年度と同様 Travel Award 基金を設立する。ただし、2008 年度

は、基金募集の時期と学術集会の寄付集めの時期が重なることから、特別会計より、500万円を上限に予算立てする。

・2008年5月16日～17日に開催される韓国内分泌学会について本会へ演者推薦の依頼が届き、福本誠二先生(東京大学)、竹田秀先生(東京医科歯科大学)の2名を推薦する。

・2008年2月16～17日に開催される韓国骨粗鬆症学会(KSO)について本会へ講演者推薦の依頼が届き、鄭雄一先生(東京大学)、山口朗先生(東京医科歯科大学)の2名を推薦する。

野田理事より、IBMS本部より、2013年の学術大会の日本開催について打診を受けた旨、報告があった。協議の結果、日本開催は正式に受諾する旨、承認した。また、松本理事長より、大会長にIBMS理事である野田理事を推薦したい旨の提案があり、全会一致にて承認した。

4) 臨床プログラム推進委員会

杉本委員長より、同委員会の活動について主に以下の報告があった。

・骨粗鬆症疾患について、骨粗鬆症学会と合同でシンポジウムなど企画を開催する。

・骨粗鬆症以外の疾患について(骨軟化症、低カルシウム、歯科/口腔外科関連、小児の低ビタミンD血症他)をとりあげ、診断と治療指針やガイドラインを策定する。

5) 骨密度基準値設定委員会

福永委員長より、10月7日に第6回委員会を開催した旨の報告があり、全国から収集したデータ解析結果、および性別、部位別、機種別のYAMと年代別の収集データの提示があった。また、データの取扱いおよび今後の作業について合わせて報告があり、了承した。なお、解析結果についてはJBMMに掲載することとした。

6) 広報委員会

萩野委員長より、以下の広報委員を選出した旨の報告があり、了承した。

池田 恭治(国立長寿医療センター老年病研究部)

市村 正一(杏林大学医学部整形外科)

伊東 昌子(長崎大学医学部・歯学部附属病院放射線科)

桐山 健(諫早そよかぜクリニック)

また、第81回日本整形外科学会学術総会での骨代謝学会特別ポスター展示について、過去の整形外科学術賞受賞者より受賞研究の原稿を集めて作成する旨の提案があり、承認した。なお、JBMM投稿案内も合わせて掲載することとした。

山口副理事長より、歯科系会員の委員として波多賢二先生(大阪大学)の推薦があり、承認した。

4. 第26回日本骨代謝学会準備状況について

第26・27回プログラム委員会にて協議することとした。

5. 第27回日本骨代謝学会準備状況について

第26・27回プログラム委員会にて協議することとした。

6. 会計処理に関する内規の制定について

事務局より、平成20年度科研費申請よりすべての学術刊行物において出版社の一般競争入札が義務付けされたこと、な

らびに経理管理事務及び監査体制について審査対象となった旨の報告があった。また、会計処理に関する内規(案)について、メール上での理事会を開催した結果、承認を得た旨、報告があった。

7. 学会誌掲載論文の転載許可について

松本理事長より、「原発性骨粗鬆症の診断基準(2000年度改訂版)」の転載依頼および骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2006年度版「英訳ダイジェスト版」における「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン」の図版転載依頼について報告があり、承認した。

< 審議事項 >

1. 新評議員の推薦について

松本理事長より、下記2名の評議員推薦があった旨報告があり承認した。(以下、敬称略)

安倍正博(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学)

石島旨章(順天堂大学医学部整形外科教室)

2. 第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)後の骨代謝サテライトシンポジウムの開催について

松本理事長より、2010年3月27日(土)～30日(火)に開催される第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)の翌日の3月31日(水)に骨代謝サテライトシンポジウムの開催依頼があった旨、報告があった。協議の結果、開催することとし、大園理事が担当することとした。

3. 学会サポーター制度について

松本理事長より、本会賛助企業より、学会サポーター制度、モニター制度、およびフェローシップ制度などの会員獲得戦略について提案のあった旨報告があり、あり方委員会にて具体的に検討することとした。

4. 出版社の競争入札制度について

事務局より、平成20年度科研費申請について、出版社の競争入札が義務付けられた旨の報告があり、スケジュール(案)および入札関連書類の内容を確認した。

2007年度 第4回理事会議事録

日時: 2008年3月29日(土) 14:00～16:00

会場: 東京国際フォーラム 5階 G504会議室

議事:

2007年度第3回理事会議事録(案)の承認

2007年12月21日に開催された2007年度第3回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理

事会の議事録署名人は、大園理事、米田理事が担当することとした。

< 報告事項 >

1. 庶務報告

野田理事より2008年2月29日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、現賛助会員一覧の提示があった。また、須田立雄名誉会員が、2007年12月12日付にて日本学士院会員に選出された旨報告があった。

2. 会計報告

吉川理事より2008年2月29日現在の会計中間報告があり、承認した。また、2007年度末の決算予測について、報告があり、会費収入が減少しているが、目立った支出が発生していないため、大幅な赤字は避けられる見通しである旨、報告があった。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会

加藤委員長より、若手シンポジウム企画最終案の提示があり、了承した。松本理事長より、第26回学術集会にて「Meet the Expert Session」と題したセッションを企画し、基礎、臨床の各専門的な講座を開催予定である旨、報告があった。

2) JBMM 編集委員会

清野編集委員長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。
・2007年度12月31日時点での投稿数は242編であり、オンライン査読システム導入により、投稿数が増加している。
・却下率は、2006年度52.3%に対し、2007年度は47.5%と50%前後で推移している。
・投稿論文の増加に対応するため、査読者の負担を軽減するため、レフェリーを増やす予定である。
・2007年度インパクトファクターは1.468であった。
・インパクトファクターを上げるため、理事各位へ学術集会特別講演者など著名な研究者の投稿を促してほしい。
なお、奨励賞受賞者のJBMM投稿を廃止してはどうかとの提案があり、承認した。また、論文の図表をWeb上で補足掲載できるSupplemental dataシステムについて紹介があり、採用することとした。

3) 国際渉外委員会

米田委員長より、同委員会の活動について主に以下の報告があった。
・2008年2月16～17日にインチョンにて開催された韓国骨粗鬆症学会(KSO)について、本大会より鄭雄一先生(東京大学)、山口朗先生(東京医科歯科大学)の2名を派遣した。同大会では、須田立雄名誉会員が基調講演を行い、折茂筆名誉会員が骨粗鬆症ガイドラインについての講演を行っ

た。

・韓国内分泌学会が2008年5月16日～17日にソウルで開催される予定であり、小守寿文先生(長崎大学)、竹田秀先生(東京医科歯科大学)の2名を派遣する予定である。

・香港骨粗鬆症学会より、Asian Federation of Osteoporosis Societiesを結成の通知および参画の呼びかけがあったが、応じないこととした。

米田委員長より、IBMS 2013 に向けて、アジアにおける日本の主導権を確保するため、IBMS の下部組織の形で、Asian Societies of Bone and Mineral Research を立ち上げてはどうかとの提案があり、了承した。具体的にはIBMS 2009 においてAsian Session の企画が予定されていることから、日本、韓国、シンガポール、中国、台湾、タイ、インド等へ参画を呼びかけることとした。

4) 臨床プログラム推進委員会

杉本委員長より、下記の小委員会を立ち上げる予定である旨、報告があった。

・血清 25D 基準値の設定検討委員会・・・松本理事長、岡崎評議員他

なお、骨粗鬆症学会と合同で発足したビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死に対する検討委員会について協議した結果、米田理事を中心として活動していく旨、了承した。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会

太田監事より、本委員会の活動について、2000 年度版の妥当性の検証作業を終え、論文のJBMM 投稿を進めている旨、報告があった。また、中村委員長より、今後 short version の作成については、骨粗鬆症学会と共同で進めていく予定であったが、従来通り骨代謝学会の活動とし、委員長を遠藤担当理事に交替したい旨の提案があり、了承した。

6) 骨密度基準値設定委員会

太田監事より、現在データ収集作業を終え、YAM 値は10 年前と殆ど差異のない結果であったこと、および福永委員長と曽根委員を中心に論文を執筆中である旨、報告があった。

7) 広報委員会

萩野委員長より、第81 回日本整形外科学会学術総会で発表する骨代謝学会特別ポスター原稿について提示があり、了承した。なお、現在、学会ホームページの一般の方向けのサイトについて原稿執筆を進めている旨、報告があった。山口副理事長より、メール配信をより活性化させるため、メールアドレス登録者を増やすよう努力してはどうかとの提案があり、未登録者のみ個別に郵送にて依頼することとした。松本理事長より、学会ホームページに企業のバナー掲載欄を設置してはどうかとの提案があり、了承した。

4. 第26回日本骨代謝学会準備状況について

第26・27 回プログラム委員会にて協議することとした。

5. 第27回日本骨代謝学会準備状況について

第26・27回プログラム委員会にて協議することとした。

6. 第28回日本骨代謝学会準備状況について

太田第28回会長より、開催時期は6~7月とし、第26回、27回学術集会の企画をふまえ、検討していく旨、報告があった。

7. 学会誌掲載論文の転載許可について

松本理事長より、「原発性骨粗鬆症の診断基準(2000年度改訂版)」の転載依頼3件および「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン」の図版転載依頼1件について報告があり、承認した。

8. IBMS BoneKEyについて

松本理事長よりIBMSの骨代謝に関する論文の専門サイト(BoneKEy)について紹介があり、了承した。

< 審議事項 >

1. 2008年度各賞応募・選考スケジュールについて

松本理事長より、学会賞、学術賞、研究奨励賞、優秀演題賞(旧奨励賞)の応募・選考スケジュールについて提案があり、了承した。

IBMS Travel Award 2009について、Travel Awardの予算の確定時期および、IBMSへの参加を前提としていることを考慮し、10月以降に受賞者を確定することとした。

2. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞選考委員選出について

松本理事長より、標記の件について従来通り、理事会出席者で構成してはどうかとの提案があり、了承した。

3. 2008年度事業計画について

松本理事長より、2008年度事業計画(案)について報告があり、了承した。

4. 骨粗鬆症学会との合同企画について

松本理事長より、第26回学術集会と第10回日本骨粗鬆症学会との合同企画日程について、10月31日(金)の午前9時~12時に決定した旨、報告があり、以下の企画案について承認した。

第1部:骨粗鬆症治療に関連するガイドラインについて討議するシンポジウム

第2部:韓国骨代謝学会(KBMS)、韓国骨粗鬆症学会(KSO)、日本骨粗鬆症学会、および日本骨代謝学会の4学会合同シンポジウム(4学会より1名以上の演者を選出、1名あたり20分程度の発表)

5. 第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)後の骨代謝サテライトシンポジウムについて

大園理事より、標記シンポジウム開催に向けて、大阪近辺の

300名規模の会場を検討している旨、報告があった。第14回国際内分泌学会(ICE 2010)より助成金の拠出が無い場合、講演者の招聘について審議した結果、ICE 2010のプログラムが確定した段階で、本大会プログラムの講演者を中心に演者を選出してはどうかとの提案があり、了承した。

6. IBMS 2013開催について

野田理事より、IBMS 2013の日本開催についてIBMS理事会でもほぼ了承を得た旨、報告があった。

松本理事長より、2003年の開催時と同様、国内の学術集会と併催にしてはどうかとの提案があり、承認した。

7. IOFのCNSメンバー推薦について

松本理事長より、IOFの委員会の一つであるCommittee of National Societies(CNS)について、骨代謝学会の代表委員であった中村利孝先生より、退任に伴い後任を選出してほしい旨の依頼があった旨、報告があった。協議した結果、宗圓理事の推薦があり、全会一致にて承認した。

8. 公益法人の制度改革について

松本理事長より、公益法人の制度改革による制度規定および公益社団法人取得のための手続き等について報告があった。新制度移行後の法人化について協議した結果、現状の規模や運営体制を考慮し、当面は任意団体として継続する旨、確認した。

2008年度 第1回理事会議事録

日時: 2008年7月21日(月) 14:00~16:00

会場: 千里ライフサイエンスセンター 6階 601会議室

議事:

2007年度第4回理事会議事録(案)の承認

2007年3月28日に開催された2007年度第4回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、加藤理事、杉本理事が担当することとした。

< 報告事項 >

1. 庶務報告

水沼理事より、2008年6月30日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、現賛助会員一覧の提示があった。また、アムジェン(株)、田辺三菱製薬(株)および三菱化学メディエンス(株)より賛助会員退会の申し出のあった旨報告があり、承認した。なお、会員数が減少傾向にあることから、関係各位へ入会を促すことを確認した。

2. 各種委員会報告

1) あり方委員会

加藤委員長より、今年度学術集会より開催される若手主導のシンポジウムおよび基礎、臨床の各入門的な講座「Meet the Expert Session」セッションについて、報告があった。また、臨床医の会員継続を促す対策について、意見の募集がなされた。

2) JBMM 編集委員会

清野編集委員長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。

- ・2008年度7月8日時点での今年の投稿数は131編であり、投稿数が増加の傾向にある。
 - ・却下率は、2006年度投稿論文 52.3%に対し、2007年度は 48.3%と同程度で推移している。
 - ・投稿論文の増加に伴い、採択されてから論文公開までの期間が長い現状を考慮し、論文ごとに電子媒体で公開するオンラインファーストを導入することとした。
 - ・2007年度インパクトファクターは 1.468 であった。
 - ・査読者の負担が一部に偏っていることから、海外の若手の研究者など関係各位へ査読者になっていただくよう促してほしい。
- 松本理事長よりオンラインファーストについて、査読者がもう 1 名の査読者の内容を把握できるようにしたいとの提案があり、システムを改善することとした。

3) 国際渉外委員会

米田委員長より、同委員会の活動について主に以下の報告があった。

- ・Sydney IBMS について、Travel Award を設けることとなったが、約 120 名より応募があり、そのうち上位 25 名に Award 授与を予定している。
- ・IBMS の下部組織の形で、Asian Societies of Bone and Mineral Research を立ち上げたが、具体的な活動として、IBMS 2009 にて、日本、韓国、シンガポール、中国、台湾、タイ、インドより各 1 名の講演者による Asian Session を企画する予定である。

なお、第 26 回骨代謝学会/日本骨粗鬆症学会での JSBMR/JOS/KOS/KSBM の合同シンポジウムについて、本学会より池田恭治先生(国立長寿医療センター)を推薦したい旨の提案があり、承認した。

4) 臨床プログラム推進委員会

杉本委員長より、同委員会の活動について主に以下の報告があった。

- ・血清 25OHD 基準値の設定検討委員会は、岡崎評議員を中心に活動している。
- ・ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死に対する検討委員会については骨粗鬆症学会との委員会が発足し、独立した委員会として活動している。

大園理事より、血清 25OHD 基準値について、小児科においても治験が開始されることから、本委員会の小委員会に組み

込んでどうかとの提案があり、了承した。委員選出については杉本委員長へ一任することとした。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会

太田理事より、現在、2000 年度版の妥当性についての論文初稿を、JBMM 掲載に向けて校閲中である旨、報告があった。なお、妥当性検証の作業終了とともに、short version の作成に向けて委員会を開催する予定である旨、報告があった。中村前委員長より、short version については ADL 評価と QOL 評価の違いを明確にすることが重要となる旨、補足説明があった。

6) 骨密度基準値設定委員会

太田監事より、本委員会でもとめた基準値の取扱いについて、以下の報告があった。

- ・臨床医は、骨粗鬆症と判定する BMD 値(測定部位別、機種別の)がわかれば良い。
- ・腰椎は患者に説明するのに%表示が使いやすいので、SD 表示と併記する。

(L2-4 については、QDR, DPX, DCS-900 の 3 機種では、70%と-2.5SD はほぼ同じ BMD である)

・L2-4 の YAM は、1996 年と 2007 年でほぼ同じ値であるので、変更は不要である。

・L1-4 の YAM は今回新たに設定するので、SD 表示とする。

・大腿骨近位部については、FRAX の導入による骨折リスクの評価には%表示ではなく T スコアまたは Z スコアを入力する必要がある。また、NHANES の白人の YAM と SD を利用して T スコアまたは Z スコアを算出しなければならない。従って、大腿骨近位部は T スコア表示にする方が良い。

・橈骨は従来通り%表示を用いる。

中村副委員長より、本委員会の当初の目的である Peak 値と SD 値の 10 年前との差異を明らかにする点については、ほぼ変更なしという結果を得た旨、報告があった。また、国際標準に合わせて T スコア表示にする際に浮上する橈骨の取扱い等の新たな問題について、今後審議していく旨、補足説明があった。

7) 広報委員会

萩野委員長より、本委員会の活動について、主に以下の報告があった。

- ・第 81 回日本整形外科学会学術総会において骨代謝学会の特別展示(ポスター)を発表した。
- ・学会ホームページに企業のバナー掲載欄を設置し、募集を開始した。
- ・一般の方向けのホームページ作成について、現在委員に執筆を分担している。

松本理事長より、学術集会情報を中心に、英文ページを充実させたいとの要望があり、委員を増員する旨、了承した。

8) ビスフォスフォネート製剤顎骨壊死検討委員会
米田委員長より、同委員会の活動について、主に以下の報告があった。

- ・本委員会名について、「BP 製剤顎骨壊死検討委員会」を承認した。
- ・以下の委員を承認した。
日本骨粗鬆症学会代表：
浦出雅裕、太田博明、宗圓 聡、豊澤 悟
日本骨代謝学会代表：
杉本利嗣、高橋俊二、萩野 浩、米田俊之
オブザーバー： 中村利孝(日本骨粗鬆症学会理事長)、
松本俊夫(日本骨代謝学会理事長)
- ・本委員会の成果は、骨粗鬆症学会と骨代謝学会の共同で発表する。
- ・短期的目標としては、学術的により深めた日本の実情に見合うガイドラインの年内策定を目指し、一般開業歯科医向けにもアレンジしたものを作成したい。
- ・長期的目標としては、前向き試験を行って統計学的にも証拠水準を高めたいとの説明があり、使用抗生物質の検討(米国血液学会にて既発表)など前向き試験の実施計画を検討していく予定である。

3. 第26回日本骨代謝学会準備状況について

松本第26回会長より、第26回学術集会について主に以下のとおり報告があった。

- ・海外招請講演として、Erwin Wagner 先生を予定している。
- ・国内特別講演として、山中伸弥先生に依頼した。
- ・イブニングシンポジウム3企画、ミニシンポジウム10企画、ランチョンセミナー8企画を予定している。
- ・Meet the Expert セッションを2日間予定している。
- ・一般演題の応募は237演題あり、そのうち、一般口演を120演題(20セッション)、ポスター発表117演題を予定している。

なお、骨粗鬆症学会との合同シンポジウム「骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン」の演者について協議した結果、萩野理事の推薦があり、全会一致で承認した。

松本第26回会長より、非会員の演者については、今後入会依頼の督促を行う旨の提案があり、了承した。

4. 第27回日本骨代謝学会準備状況について

米田第27回会長より、第27回学術集会について、2009年7月23日(木)～25日(土)に大阪国際会議場で開催する予定である旨、報告があった。第26回と会期が近いことから、演題締切日をできるだけ後に延ばす予定である旨、説明があった。

5. 第28回日本骨代謝学会準備状況について

太田第28回会長より、開催時期は6～7月とし、第26回、27回学術集会の企画をふまえ、検討していく旨、報告があった。

6. 学会誌掲載論文の転載許可について

松本理事長より2007年度第4回理事会終了後に依頼のあつ

た「原発性骨粗鬆症の診断基準」および「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン」の転載依頼について報告があり、承認した。

< 審議事項 >

1. 2007年度収支決算報告(案)について

吉川理事より、2007年度収支決算報告(案)について主に以下の報告があり承認した。

< 一般会計 >

- ・科研費が落選したため、単年度2,637,049円の赤字決算であった。
- ・会費収入は正会員、学生会員が会員数減少により、予算より減収となった。
- ・雑収入について、JBMM和文抄訳料525,000円の収入があったため、増収となった。
- ・JBMM別刷販売について転載使用依頼があり、予算より増収となった。
- ・学会賞関係費について学会賞が該当者なしであったため、減額した。
- ・予備費について、慶弔関連経費が発生し増額した。

2. 2007年度会計監査について

清野監事より、清野、太田両監事が、それぞれ会計監査を行ない、帳簿および伝票など資料を確認した結果、経理は適正に執行されていることが報告された。

3. 2008年度予算(案)について

吉川理事より、2008年度予算(案)について、主に以下の報告があり承認した。

- ・会員数減により納入率を正会員85%、学生会員65%として算出した。
- ・科学研究費補助金について、日本学術振興会より530万円の交付決定があった。
- ・学会賞関係費について、今年度より賞が増設されたため、賞金、賞状作成費等、予算を増額した。
- ・事務委託費について、公認会計士実施検査導入のため、30万円増額した。

4. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞・JBMM論文賞の選考について

松本選考委員長より、各賞応募者の提示があり、協議の結果、下記の候補者を今年度の受賞とする旨、承認した。

[学術賞]

- < 外科系 > 橋本 淳(大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学)
- < 内科系 > 安倍 正博(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報内科学)
- < 基礎系 > 今村 健志((財)癌研究会癌研究所生化学部)

各種委員会

【研究奨励賞】

- <基礎系> 片桐 岳信 (埼玉医科大学ゲノム医学研究センター)
- <基礎系> 竹田 秀 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脊髄脊椎再生治療学)
- <外科系> 緒方 直史 (東京大学医学部ティッシュエンジニアリング部骨軟骨再生医療学講座)
- <外科系> 斎藤 充 (東京慈恵会医科大学整形外科)
- <外科系> 妻木 範行 (大阪大学大学院医学系研究科骨・軟骨形成制御学)

【優秀演題賞】

- <基礎系> 矢野 文子 (東京大学医学部ティッシュ・エンジニアリング部)
- <臨床系> 木村 浩明 (京都大学医学部整形外科)
- <臨床系> 中村 正樹 (東京大学医学部整形外科)
- <臨床系> 永瀬 雄一 (東京大学医学部整形外科)

【JBMM 論文賞】

安藤 渉 (大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学)

5. 学会賞の選考について

松本理事長より、今年度の学会賞選考について、候補者の推薦が無かったため今年度は該当者無しとする旨の提案があり、承認した。

6. 新評議員の推薦について

松本理事長より、下記3名の評議員推薦があった旨報告があり承認した。(以下、敬称略)

小竹 茂(東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター)
南家由紀(東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター)
西村理行(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座生化学教室)

7. ステロイド骨粗鬆症の診断・治療ガイドラインの見直しについて

松本理事長より、国外でステロイドガイドラインの改定が進められている背景を考慮し、名和田旧ステロイド委員長に本ガイドライン改定作業について打診したところ、快諾の返事があった旨報告があり、委員会を立ち上げ、改訂版の作成を着手する旨、了承した。

8. シュプリンガー社との契約について

清野編集委員長より、シュプリンガー社との JBMM 出版契約について、入札に伴う更新時期であることから、覚書(案)の提案があり、承認した。

9. IOF への活動状況報告について

宗園理事より、IOF より加盟学会宛て依頼のあった活動状況報告書について提示があり、作成については同理事が担当することとした。

<第24回 JBMM 編集委員会>

日時:2008年10月28日(火) 17:00~18:00

場所:大阪国際会議場 1102号室

出席者:編集委員長:清野佳紀

Associate editors:杉本利嗣、野田政樹、松本俊夫
(理事長)、山口 朗、米田俊之

編集秘書:五郎大由似子

欠席者: Associate editors:遠藤直人、大園恵一、加藤茂明、
田中良哉、中村利孝、福永仁夫、
細井孝之、吉川秀樹

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

1. 報告事項

1. 発行準備状況

26(5)を9月に予定どおり発行した。26(6)は11月上旬に会員へ配布する予定である。

27巻2号以降掲載論文は40論文が決定している。

2009年に発行する27巻より行うオンラインファーストによる制作を導入する。

2. 投稿状況

2008年1月1日~10月14日までに209編の投稿があった。前年同期は186編で、投稿数が1割増加している。内訳は海外からの投稿が138編、国内からの投稿が71編である。全投稿数における海外の地域別の割合は、EUからの投稿数23%、アフリカから11%とやや増加し、アジアからの投稿数18%および中近東から2%でやや減少し、北米からの投稿数は6%と横ばいである。

なお、採択率は論文内容にもよるが、今までどおり50%程度とすることを確認した。

現在は81編が審査中である。

3. インパクトファクターについて

2008年度発表インパクトファクターは、1.425であった。
(2007年:1.468、2006年:1.464)

4. オンラインファーストにて制作を開始

11月中旬以降に今後、採択日順で論文ごとウェブにアップする予定である。オンラインファーストへ制作方法を変更することについて、JBMM26巻6号にて告知する。

自動組版に対応したレイアウトや体裁に統一されることになり、現在のレイアウトから若干変更される。また、個々の論文が早期電子出版された以降は、各論文を号にまとめる際も含めて、変更ができなくなる。

なお、JBMMでは待機論文が多くなっているため、月刊誌にすることも視野に入れながら、紙媒体を従来どおりの方法で発行するかについて、今後検討することとする。

5. Instruction for Authors改訂:現状に合わせて下記へ変更することを討議の上、決定した。

・オンラインファースト導入に伴い、この事項についてはシュプリンガーの規定の様式のInstructionに変更する。主な改訂箇所はつぎのとおりである。

図の部分を示すアルファベットは図説においては小文字となる。

助成金を受けており、フリーアクセスにしなくてはならない論文については、オープンチョイスを選択できる。コピーライトが日本骨代謝学会およびシュプリングジャーナルにあることを明記する。

ウェブではカラーで閲覧できる図表について、ジャーナル発行時は通常モノクロで印刷することとなる。カラー印刷には追加料金が必要である。

・「Perspective」という分類を追加し、投稿規程に記載する内容を確認、下記のとおりとした。

Perspectives: Perspectives are more focused than reviews and may be accepted from a single individual or team. Perspectives may be solicited or proposed. Proposed perspectives must be approved by the Editor-in-Chief prior to submission. The JBMM will not review perspectives that have not been approved by the Editor-in-Chief. Perspectives should review a particular field to identify outstanding issues and challenges and propose new hypotheses. Please note that any Perspective will be subject to the standard review process.

6. その他

シュプリングジャーナルでは商業的にウェブにより大量印刷することについて、PDF ファイルに何かしらの制限を技術的に設けることを検討中である。投稿規程にこうしたことを発見した際には損害賠償などを検討するという文言を追記することを依頼している。

JBMM のポスターを今学会会期中に掲示することになっている。

< 第3回 BP 製剤顎骨壊死検討委員会 >

日時:平成20年10月29日(水) 19時30分~21時00分
場所:大阪国際会議場 8階 802会議室

前回の議事録を確認後、議事を開始した。

1. 新委員の紹介

米田委員長より、委員会に新たに出席して頂くことになった永田俊彦教授(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・歯周歯内治療学分野)および田口 明教授(松本歯科大学歯学部歯科放射線学講座)の紹介があった。

2. 臨床疫学調査研究について

米田委員長より、日本歯科医学会代表として出席いただいた杉崎正志教授(東京慈恵会医科大学歯科学教室)の紹介があり、杉崎教授から、BP系薬剤と顎骨壊死の関連性における疫学調査研究の可能性について、研究概念、コホート研究、統計解析、研究経費などの解説があった。

3. ガイドライン草案について

米田委員長より、ガイドライン草案の紹介があり、以下の追加

等改訂作業について審議され、了承された。

- 1) 画像診断(X線画像による経過観察など)を診断基準にできるだけ盛り込む
- 2) 「各科におけるBPの有用性」の書き方は、歯科医がBPの有用性を理解できるよう配慮する
- 3) 「発生頻度」を「報告頻度」に訂正するなど表記には注意を払う
- 4) 発表の形式は、ガイドラインではなく Position Paper として発表する
- 5) Position Paper は、英文で JBMM に perspective として掲載する

4. 顎骨壊死症例報告 - 病理学の観点から -

豊澤委員より、顎骨壊死の症例について報告があり、主に顎骨の解剖学的・臨床学的特殊性について、資料に基づき説明があった。

公募情報

< ノボ ノルディスク成長・発達研究賞 2009 募集要項 >

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社では、「ノボ ノルディスク成長・発達研究賞 2009」を下記要領にて募集いたしております。

概要:

本研究賞は、成長・発達の内分泌学に関する研究を対象とし、当該領域の臨床研究の発展に寄与すると認められる研究に対して助成金を授与し、その研究支援を行います。

研究助成金総額: 1000万円(100万円×10研究課題)

助成対象期間: 原則として1年間

応募資格: 「応募規定」をご覧ください。「応募規定」「研究課題申請書」は、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社のコーポレートサイト(www.novonordisk.co.jp)よりダウンロードしてください。

募集期間: 2008年12月15日(月)~2009年3月10日(火)
(当日消印有効)

応募方法: 所定の「研究課題申請書」にすべてご記入の上、下記事務局宛て郵送にてご応募ください。

通知: 採択結果につきましては、4月下旬頃申請者ご本人に郵送にて通知いたします。

表彰: 受賞者は2009年5月30日(土)に予定されている授賞式にご出席いただきます。

(会場: ウェスティン都ホテル京都、18:30頃予定)

ノボ ノルディスク成長・発達研究賞事務局
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
マーケティング本部情報企画部 佐藤 博之
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
TEL:03-6266-1057 FAX:03-6266-1802
メールアドレス: jphc_gh@novonordisk.com

関連学会のお知らせ

第2回 IBMS-ANZBMS 合同会議

2nd Joint Meeting of the International Bone & Mineral Society and the Australian & New Zealand Bone & Mineral Society

オーストラリア、シドニーにて、第2回 IBMS-ANZBMS 合同会議が下記のとおり開催されます。

2005年に開催された第1回 IOF-ANZBMS 合同会議では、日本から多くの研究者が参加しており、世界的にも注目されています。是非日本からの積極的な参加をお願いいたします。

会期：2009年3月21日(土)～3月25日(水)

会場：The Sydney Convention and Exhibition Centre (SCEC)

演題登録締切：2008年12月17日(水)に延長されました。

詳細はホームページ <http://www.ibms2009.com/> をご覧ください。

Asian Bone Society Meetingのご案内

社会の国際化、今後のアジア諸国との協力の重要性を鑑み、日本骨代謝学会は他のアジア諸国の関連学会と共に、2009年3月に開催されます2nd Joint Meeting of the International Bone & Mineral Society and the Australian & New Zealand Bone and Mineral Societyの際に、Asian sessionを開催いたします。概要は以下の通りです。参加登録、参加費は必要ありません。会員の皆様の奮っての御参加を、お願い申し上げます。

<期 日> 2009年3月21日(土曜日) 14時00分～16時00分

<プログラム>

Dr. Yong-Chan Ha (Korea)

Epidemiologic study of hip fracture in Jeju Island, South Korea: prospective cohort study (2002-2008)

Dr. Usha Sriram (India)

Osteoporosis and osteomalacia: The Indian perspective

Dr. Keng-Hong Leong (Singapore)

The development of osteoporosis management in Singapore

Dr. Thawee Songpatanasilp (Thailand)

Epidemiology of osteoporotic fractures in Thailand

Dr. Satoshi Soen (Japan)

Clinical features and management of osteoporosis in Japan



第3回 Bone Research Seminar

会期：2009年2月27日(金)13時00分～18時40分 / 2月28日(土)9時30分～11時30分

会場：丸ビルホール&コンファレンススクエア Room4

〒100-6307 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル8階 TEL：03-3217-7111

参加費：無料

主催：中外製薬株式会社骨領域部

ホームページ：<http://conet-cap.jp/bresearch.html>

事務局および参加受付：株式会社コネット

大阪市淀川区西中島5-5-15 新大阪セントラルタワー8F Tel：06-4806-5656 Fax：06-4806-5658

E-mail：bresearch@conet-cap.jp

第8回癌と骨病変国際会議 Cancer induced Bone Disease Meeting, Sydney, 2009

会期：2009年3月25日(水)～26日(木)

会場：The Sydney Convention and Exhibition Centre(SCEC)

ホームページ：<http://www.cancerandbonesociety.org/Meeting/2009Sydney/tabid/89/Default.aspx>

36th European Symposium on Calcified Tissues-23-27 May, 2009

会期：2009年5月23日(土)～27日(水)

会場：The Reed Messe Congress Center (Vienna, Austria)

ホームページ：<http://www.ectsoc.org/vienna2009/> をご覧ください。)

第29回日本骨形態計測学会

会期：2009年5月28日(木)～5月30日(土)

会場：大阪国際会議場

会長：西沢 良記(大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学)

ホームページ：<http://med-dyna.com/jsbm09/>

第24回内藤コンファレンス

会期：2009年6月23日(火)～6月26日(金)

会場：シャトレ・ゼガトーキングダムサッポロ(北海道札幌市)

演題応募期間：2008年12月4日(木)～2009年1月22日(木)正午必着

ホームページ：http://www.sunpla-mcv.com/naito_conference/

第26回内藤コンファレンス

会期：2009年11月4日(水)～11月7日(土)

会場：淡路夢舞台国際会議場 / ウェスティンホテル淡路

演題応募期間：2009年4月7日(火)～2009年5月19日(火)正午必着

ホームページ：http://www.sunpla-mcv.com/naito_conference/

第3回骨・軟骨フロンティア(BCF)

会期：2009年11月28日(土) 13:00～18:30(予定)

会場：ベルサール八重洲 3階Room1,2,3(予定)

東京都中央区八重洲1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル3F

(東京駅八重洲北口徒歩3分)

代表世話人：米田俊之(大阪大学大学院歯学研究科口腔免疫制御学講座生化学教室)

プログラム：2009年夏頃ご案内予定

共催：骨・軟骨フロンティア / 旭化成ファーマ株式会社

事務局 / お問合せ先：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔病理学分野

担当：吉田濃利子 FAX：03-5803-0188 E-mail：bc_frontier@mail.goo.ne.jp

IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界 64 カ国に会員約 2,500 名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と 2 年に 1 度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

2003 年 6 月には日本骨代謝学会との初めての Joint Meeting が大阪で開催されました。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

詳しい情報ならびにお申込につきましては、

IBMS ホームページ

<http://www.ibmsonline.org/> membership のページより、
ご覧ください。

日本骨代謝学会は、運動器の 10 年日本委員会に加盟しています。



「運動器の10年」世界運動